

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	言語理解と行動制御	研究代表者名	田中 穂積
-------	-----------	--------	-------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ (×) 概ね予定どおり達成した
- ウ () 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
文理融合の意欲的な課題に対し、異分野の研究者の融合を図り、当初の目的をほぼ達成したが、人文系の研究分担者による成果にはやや物足りなさがある。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ (×) 概ね貢献できた
- ウ () 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
話し言葉に焦点を当て、ソフトウェアロボットにより、対話システムのプロトタイプを開発したことは、当該学問分野に貢献した。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
研究組織記載の各研究者の役割が必ずしも明確ではないところがあるが、学術創成研究としては意義ある成果をあげ、今後の展開の可能性を開いた。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
チュートリアル、ワークショップなどによる普及の努力は認められる。ただし、人文系分担者による成果には波及性からみて、やや物足りない。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
×	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

言語理解と行動制御の課題を設定し、話し言葉に焦点をあて、動作辞書の作成などにより、ソフトウェアロボットに、ポテンシャル法、アフォーダンス論などを組み合わせたプロトタイプシステムを開発した。これにより、異分野間の研究交流を進め、人間とロボットとの対話に対し、新しい知見を得たことは評価できる。

なお、研究成果として、話し言葉についての基礎理論に関するものには物足りなさがあり、また行動と認識の問題の捉え方、さらには脳科学的視点の必要性などに改善の余地があるのではない。